

# アウグスチヌス 小山 一 助祭 シモン・ペトロ ウィリアムス R.T. 助祭 終身助祭叙階おめでとうございます

7月28日、高松教区司教座聖堂桜町教会において、「アウグスチヌス 小山 一 助祭」「シモン・ペトロ ウィリアムス R.T. 助祭」の叙階式が行われました。諏訪司教司式による厳粛な叙階式ミサには、教区内外から300人を超える参列者が集いました。  
ミサ後には、四国カトリック会館において祝賀パーティーが行われ、喜びを分かち合いました。



按手



諸聖人の連願



奉献文



挨拶



福音書の授与



祝賀会にてお祝いの言葉



叙階式後、司祭団・侍者と

## 終身助祭として

小山 一

教区の皆さま、とくに徳島地区の皆さま、本当にありがとうございました。今回の叙階に際してのみならず、これまで折々に支え・教え・助けて頂いたこと、心から感謝しております。叙階式の中での司教さまからの問いかけには儀式書にある通りに答えましたが、あれは私の本心からの答えです。神さまの忍耐と慈しみに心から感謝すると同時に、司教さまに誠実に仕え、司祭方・助祭方・修道者方にも誠実に仕え、教区の信徒の皆さんに心から誠実に仕え、また、同時代を生きる教区内外に住む人々に神さまとともに生きる喜びと慰めを伝えてゆきます；折があろうとなかろうと。実力以上の大それた願いですが、私はマリア様のご保護を洗礼を受けたその日からずっと受け、これまでも実力以上の仕事をしてきました；一緒に働いてくださった方々に感謝で一杯です。聖母の助けを信頼しきって頑張ります。これからもどうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

---

---

ウィリアムス R. T.

私は神学校で、終身助祭のみが7つの秘跡全てを受けることが出来ると習いました。こんな光栄なことはあませんし、この本当の恵みと意味を探求していくつもりです。

高校の頃、司祭になる使命を感じましたが、世の中には他にも沢山すべき事がありました。そして主が私を日本に導いたのです。日本語を学び、ここで生活し始めた後、私はまた主からの使命を感じました。

教会は秘跡を、我々を育てる神よりの恵みと考えます。聖職の秘跡を通じ、我々は教会に奉仕します。我々は教会の貴族ではありません。我々はイエスの使命を受け、仕えるのです。源始教会では、助祭は慈愛の聖職者として指名されていました。助祭の役割りとはキリストの役割りとして人々に奉仕し、人々を神の光へ導くことです。我々は人々にただ無条件で奉仕するのです。

日本には助祭は多くありません。司祭は皆一度は助祭でした。日本での終身助祭の役割りは教会と司教に仕えることですが、答えは歩む中で見つかります。私はボーイスカウトの手助けや国際団体への支援に携わってきました。西讃ブロックや高松教区信徒への援助も行いました。

助祭は人々と共にある存在であるべきです。司教や司祭が人々と直接には繋がりにくい分、助祭は社会で働きながら、結婚していながら、教区民と馴染みつつ、司教と教会への手助けをします。

今私は聖職の道の歩みに選ばれたことに対して大きな恩恵を感じています。私は助祭として、人々の手助けに最大限務めることを忘れません。